「教育実習報告書」

[公立中学校　国語]

私は、学校教育において最も重要なことは教員が生徒一人ひとりときちんと向き合うことではないかと思う。なかなか心を開いてくれない生徒はもちろんだが、そうではない、教員をよく慕ってくれる生徒も含めて全員と誠実に向き合わなければならない。そうすることで信頼関係を築くことができ、日々の生活にも影響を与えてくるのではないだろうか。

たとえば授業中、教科書を机の上に出していない、ノートを開けていない、あるいは教材は出していても別のことしている、体を起こしていないといった生徒は多く存在する。指導教員の先生は、「最低限全員に教材は出させて。それから、人によってとかその時によって『今ならいける！』というタイミングが来たら、ノートを書いたり線を引いたりさせて。」とおっしゃっていた。しかし、その生徒がたまたまその時に集中が切れてしまっただけなのか、それとも全く授業に取り組む意思がないのかというのは、一人ひとりの普段の様子を知っていて、なおかつその時の状態も把握していなければ授業中の一瞬で判断することはできない。学習活動のつまずきなどでも同様である。普段の様子からその生徒は何ができて何が苦手なのか知っていなければ、その時どの部分でつまずいているのか気づくことができないだろう。常に生徒のことを見て、考えているからこそ、的確な指導を行えるのだ。

また、日常から生徒の様子を見ることはそのまま生徒指導にもつながると考えられる。生徒たちは多感な時期であり、楽しくおしゃべりしていると思った数分後には泣き出したり、ケンカが始まったりする。しかし一見唐突に見える感情の変化も、実は日々の中でだんだん溜まっていった気持ちが決壊したのかもしれない。休み時間、部活動中なども生徒やその交友関係をよく観察しておくことで、生徒たちの小さな気持ちの変化に気づくことができる。

生徒たち一人ひとりと向き合い、常に見守っていくことで様々な変化も見逃さず、素早く適切な対応をすることができる。そして、生徒たちもまた教員のことをよく見ている。だからこそ、教員の誠実な態度に生徒たちも応えてくれ、良い信頼関係を作り上げていけるのだ。